STAFF INTERVIEW

# 職員紹介　波多野隆幸店長編

普段私たちに様々なサービスを提供している京大生協。しかし、どこにどんな施設があるのか、またどんなサービスが受けられるのかについては知っていても、その組織を運営しているのが一体どんな人たちであるのかについて、ほとんど知らないという方が大半ではないでしょうか？　今回、吉田食堂とカンフォーラの現店長である波多野さんにインタビューをおこないました。普段馴染みのない情報に触れる機会かも？
（紫白）



## 波多野隆幸　店長

出身は京都府福知山市。プライベートでの目標は旅行で全都道府県を制覇すること。

### 普段はどんな業務をされているんですか？

私の業務は主に３つあります。

１つ目は**従業員の勤怠管理**です。勤務時間や出欠の管理、簡単に言えばシフト作成のことです。

２つ目は**メニューの決定**です。少し詳しく説明すると、まず食堂のメニューというのは、大学生協事業連合という全国の生協の集まりで決めているんです。で、そこから「今週はこのメニューを出してください」という、献立のモデルが送られてきます。それを参照し、各食堂の事情――例えば吉田食堂は麺類を提供していないわけですが――を考慮したうえで、その週の献立を決定します。職員の間ではこれを「出食計画」と呼んでいます。

最後に、**建物の維持管理**があります。例えば、壁が剥がれたり、電気がつかなくなったり。そのような場合、建物の所有者は京都大学になりますので、修繕報告をおこなうわけです。

### 社会人になってからずっと食堂に勤務していらっしゃるんですか？

実はそんなこと全然ないんです。もともと自分は教育現場の仕事、もっというなら教師になるのが夢だったんですけど、事情があって一旦諦めました。それで別の職場を探していた際、知人の方からとある生協の職を紹介されました。それまで私は、地域生協も大学生協も、生協という組織自体と関わりがなかったんです。全く未知の存在でしたが、その点に逆に好奇心をくすぐられて、そこで働くことに決めました。

ただやっぱり、数年も経つと理想とのズレみたいなものはどうしても目立ってきたんです。一度は退職しようかと思いましたが、縁あって出向のお話をいただき京大生協へ出向することになりました。自分で希望を出したわけではなかったんですが、今思えばこの出来事が転機でした。**京大生協って、まさに教育機関の現場を支える立場なわけです**。要は夢が叶ったんですね。ここで働き始めてからすぐに「自分のやりたかったのはこれだ！」ってなって。それからほどなくして、正式に京大生協に転職し、今に至ります。



ルネのケバブプレート

波多野店長の好きな食堂メニュー。理由は「野菜が摂れるのと、普通の食堂ではあまり見かけられないがゆえの特別感を醸し出している」から。

### 食堂で働くうえで、大切にしていることはありますか？

新型コロナウイルスの影響でカンフォーラが閉店してから半年のときのことです。再開の見通しが立たないことを理由に、それまで勤務してくれていた学生アルバイトの方々に退職か転属を選んでいただくことになったんです。

その旨を１人１人に伝える際、退職を惜しんで泣く人もいたんです。でもその中で、「**波多野店長には、京大生のためにこれからもいいお店を作っていってほしいです**」って激励の言葉もあって。この「京大生」っていうのは後輩たちのことだろうなと。そのときから、「京大生のために何をすべきか」という考えが、食堂業務に対する私の姿勢の基になっていったというのは感じました。

### 印象に残っているエピソードはありますか？

あるとき、海外の教授の方がカンフォーラにお越しになったことがありました。にんにくなどの球根類も避けているヴィーガンの方で、京大近辺の飲食店で料理を提供できるところがなかったんです。カンフォーラでは要望に応えるため、（本来メニュー表にない料理の提供はルール違反というのは承知の上でしたが）なんとか注文に合わせた料理をその場で考案し、提供することになりました。

後日、その方から絵葉書が送られてきて、「**京都大学で過ごす時間が有意義なものになった**」というお礼の言葉とともに、その時の料理の写真が添えられていたんです。今でもそのエピソードは記憶に残っています。同時に、このときから京大での食の多様性についてより考えるようになりました。



カンフォーラ

時計台正面にある「楠」の学名に因んだカフェレストラン。日々のちょっとしたご褒美で寄ってみてはいかが？



吉田食堂

吉田南構内での講義が多い学部１回生が多く見られる。昼休みの長蛇の列に対応するため、回転率が高くなっている。

### 最後に、組合員へのメッセージをお願いします。

やはり一番伝えたいこととしては、**私を含む食堂職員一同に、どうぞお気軽に声をかけていただきたい**ということですね。

というのも、私たちは給仕側なわけですけど、お客さんに声をかけていただくことってなかなかないんですよね。その分些細なことであっても、お客さんから話しかけてもらえるっていうのは貴重なんです。

少し裏話になるんですが、食堂で働いている職員さんって、話すまでいかなくとも、組合員の皆さまに声をかけていただけることをすごく喜んでいるんです。バックヤードで組合員さんとのやり取りを話してくれる職員もいます。ちょっとした質問でも、あるいは「これ美味しかったです」みたいな感想であっても、何なら「こんにちは」とかの挨拶だけでも嬉しいんじゃないかって思ってます。

組合員の皆様から積極的に話しかけていただけると幸いです。私も皆様にお会いできる日を楽しみにしています。

インタビューへのご協力、ありがとうございました！



はみだしすてーじ

もう12月なのに戦々恐々としている……
⇒もう新学期が始まることに戦々恐々としている……

（理・２　U）
（できることは今のうちに；編）

はみだしすてーじ

ブラックフライデーで安くなっていたのでオーブンレンジを購入！
⇒羨ましい！　料理の幅を広げるために検討を重ねているんですがなかなか手が出せず……

（エ・１　かべお！）
（いつか必ず；編）